

つた^エからエに移つたので、古くは洌の名で今の平壤河を呼んでいたのであらう。

次に樂浪の名稱を考へる、

樂浪も洌も先秦時代、大同江を中心にしてゐた朝鮮國の地名水名である、洌も樂浪も今日は羅行音であるが、思ふに古代の韓民族も名詞の初にラ行音はもたなかつたこと今日の如くであつたであらう。之を洌といつたのは、恐らく朝鮮人が何^エ洌といふのを、上を略して支那人が洌としたのでないか否樂浪と同様で樂字の羅行音を奈行音に改めて、ナラ(國の意)といひ列は之を羅行音にして^エを^エとして用ひたのであらう、もしこの假想が適中すれば所謂箕子の朝鮮人は支那文字を使用して、既に自國音で發音し、之を假字としてエ又はナラといふ地名を表示したのであるまいか。

以上は抄録である、しかしこの中に我國語の府を^エとよむことや、大阪の西生郡東成郡といふこと、又は奈良ナラといふ語の古い時代の地名考が潜在してゐると考へてこゝに之を摘要したのである。(F)

新著紹介

○地質鑛物學綱要 田上政敏著 中興館發行四月 菊版

三三一頁+二四頁 定價三圓五〇錢

近來高等學校教科程度の鑛物學書及地質學書の出版される

新著紹介、新著即報

ことの少なくないのは、學徒に取つて甚だ都合のよいことである。それも新進の専門學者によつて著される爲め、新しい學問熱の其の内に盛られるのは一層喜ばしいことである。本書も亦鑛物及地質の高等學校教課に適する様に編まれたもので甚だ要領よく鑛物と地質との一般を説いてある。翻譯著書が少なくなつて來て、日本人達に適つたものが著されてゆくことは最早遅いことではないのであるが、本書も全々翻譯の域を脱して居る。之と共に處々に記し足らぬ句が往々にあるのは一方から見れば外國書の翻譯でないのを示して居ると同時に一つの缺點である。紹介子の時々云つたことのある原語の綴りと文獻にあげた日本の大家の名に誤字が澤山にあるのは見苦しいことである。又原語が獨逸語と英語と混ぜられてあつて入門書としては甚だ不便である。字體を代へて印刷すべきである。かういふ瑕類が改められたなら本書は地學の習得者にとつて甚だ手頃な參考書となるであらう。(S)

新刊即報

○Geologiska Föreningens i Stockholm Förhandlingar. Bd. 51. Häfte 2. 1929.

On the habit of Gigantopteris. (T. G. Halle)

○Zeitschrift für Geomorphologie. Bd. N. Heft 5/6. Juli, 1929.

七三

Das Problem der Inselbergandschaften. (S. Passarge)

Ueber alte Landformen, welche im s hutz von

Ueterschiebungen aufbewahrt wurden. (O. Ampferer)

○ Vergleichende Studien zur Phylogenie, Morphologie

und Terminologie der Ammonoitenbecken. Von Otto

H. Schindewolf (Abhandlungen der Preussischen

Geologischen Landesanstalt. Neue Folge. Heft

115. 1929)

○ Bulletin of the Geological Survey of China.

No. 13. June, 1929.

Geology of the coal field of Fuhshihsean, Jehol Province

(熱河阜新縣) (C. C. Wang and T. K. Huang)

A preliminary report on the geology of Hsiao-shih

coal field, Pencilhsien, Fengtien Province. (奉天本

溪縣小市) (T. K. Huang)

Geology of some coal fields in Liaoning and Kirin

Provinces. (遼寧省田師付溝, 西安及吉林省蛟河)

(C. C. Wang)

The geology and mineral resources of Mishang and

Muleng, Kirin. (吉林省密山及穆稜) (H. S. Wang)

Geology along the valley of the Nenkiang River

Heilungkiang. (黑龍江省嫩江). (H. C. Tan and W.

S. Wang)

油壺灣内の海水の副振動に因る地殻の傾斜運動(英文)

(高橋龍太郎)

水準測量に依りて見出されたる地塊運動に就いて(英文)

(坪井忠二)

丹後地震の餘震調査報告(第二報)(那須信治)

地表面の高さ及び地變の量(井上宇風)

丹後震災地一二等三角點移動檢測成果第二報告(陸地測

量部)

丹後地方震災地復舊一等三角測量記事(陸地測量部)

○ 日本鐵業會誌 第四五卷第五三二號 八月

石炭の外観、顯微鏡的組成及化學成分の關係(岡新六)

○ 石油時報 第六〇七號 八月

地震計による地質調査法の概要と黒川油田に於ける調査

成果に就て(那須信治)

黒川油田千間堀の地質學的意義(大村一藏)

○ 臺灣博物學會報 第一九卷第一〇一號 四月

地形及地質に現はれたる臺灣島近代地史概観(早坂一郎)

臺灣中央山脈の粘板岩系中の抱球蟲に就て(早坂一郎、

丹桂之助)

第一九卷第一〇二號 六月

泥火山に就て(丹桂之助)

○ 地質學雜誌 第三六卷第四三一號 八月

櫻島熔岩中に於ける球狀安山岩及び球狀玄武岩の包裹物

我國に於ける温泉地帯より噴出する瓦斯及び二三の火山
瓦斯に就いて並びに今井氏の質疑に就いて(菅沼市藏)
陸奥椿山海岸より發掘せるエオリス様の石片に就いて
(曾根廣)

○世界地理風俗大系 第五卷インド 新光社 八月

○朝鮮鑛業會々報 第八一號 九月

地質圖の讀方(四)(向江生)

○ *Annotiones Zoologicae Japonenses. Vol. 12 No. 1.*
July, 1929.

A fossil asteroid found in the Tertiary Strata of
Prov. Hiachi. (S. Tokunaga)

○富士山の地質と水理 神原信一郎著 博進館

八月 定價三圓

○關西遊記 徳富猪一郎著 民友社 九月 五〇錢

○科學知識 第九卷第八號 八月

駒ヶ岳の過去の噴火(今村明恒)

○鑛冶 第二卷第六期 民國十七年十一月

京兆昌平分水嶺金鑛筆記(張會若)

萍鄉煤鑛(董綸)

○朝鮮 第一一七號 八月

支那の市場研究(善生永助)

咸鏡道の藥水(咸鏡道)

○地方行政 第三七卷第八號 八月

市町村の名稱と町名字名街路名道路名及地番整理(菊池

慎三)

○東洋學藝雜誌 第四五卷第八號 八月

駒ヶ岳火山の噴火(多田文男、坪井忠三、岸上冬彦、高

橋龍太郎、津屋弘遠、中田金市)

伊豆大島漫談(中村清二)

○氣象要覽 第三五八號 七月

駒ヶ岳噴火(國富技師)

駒ヶ岳爆發調査概況(根本廣紀)

○東洋學藝雜誌 第四五卷第九卷 九月

地震の原因に就いて(石本巳四雄)

火成岩の話(六)(坪井誠太郎)

地質學者山崎直方先生を懷ふ(福地信世)

山崎博士と地理學(辻村太郎)

山崎先生と地震學(多田文男)

○ *The Geographical Journal. Vol. 74. No. 1. July.*

Echo Sounding. (H. P. Douglass)

○日本交通史の研究 本庄榮治郎編 改造社 九月

三圓五〇錢

○大日本地誌大系 第六卷 新編武藏風土記稿貳 雄山閣

九月

○ *Proceedings of the Geologists' Association. Vol. 40.*

Part 2. July.

Further Aspects of the Mountain Building Problem.

(A. J. Bull)

◎北太平洋天氣圖(昭和三年十一月) 海洋氣象臺 八月

◎地質學と愛知縣 柿原明十著 愛知縣廳内愛知縣教育會發行 六月 定價一圓四〇錢

◎ウキナス 第一卷第四號 八月

◎日本産有殼軟體動物總目錄(二)(黒田)

◎郷土 第三卷第三號 八月

地表現象の意義と形成(三澤勝衛)

伊那富村土壤微生物分布概要(上田幸市)

伊北地方及び附近の地形地質斷片(三)(春日琢美)

◎Der Bau der Erde. Von L. Kober. 2te Aufl. 1929.

Borntraeger, Berlin. 15圓90(丸善)

◎Earth Flexures. By H. G. Busk. 1929. Cambridge University Press. 6圓85(丸善)

◎Evolution and Man. By H. W. Shimer. 1929.

Ginn & Co., Boston. 5圓85(丸善)

◎The Growth of the World and of its Inhabitants.

1929. By H. H. Swinerton. Constable & Co., London. 2圓76(丸善)

◎A Textbook of Geology. Part I-Physical Geology.

By L. V. Pirsson. 3rd edition. 1929. J. Wiley,

New York. 8圓45(丸善)

◎The Nappe Theory in the Alps. By F. Heritsch.

Trans. by P. G. H. Boswell. 1929. Neuhuen,

London. 7圓70(丸善)

◎Paleontology. By E. W. Barry. 1929. Mc Graw-Hill,

New York. 7圓85(丸善)

◎自然地理學の基礎的知識 淺井治平著 目黒書店 五月

二圓八〇錢

◎地學雜誌 第四一年第四八七號 九月

土耳其事情(内藤智秀)

支那古代に於ける中央亞細亞の交通路に就て(二)(小川

琢治)

高原火山東南麓第三紀層に發見せる所謂化石三稜石に就

て(一)(田山利三郎、新野弘)

南樺太炭田の層位に就て(四)(今井半次郎)

西尾式 Core Borer と東京市地質調査結果の第一報

(西尾銚次郎)

◎晚近礦物學 青山信雄、木下龜城共著 東京文啓社發行

九月 金四圓八〇錢

◎地震 第一卷第九號 九月

地震に關する一篇を尋常小學校の課程に加ふるの議(今

村明恒)

黒川油田紀行(那須信治)

江戸の火災(那須信治、神永幸三)

◎自然科學 第四卷第二號(地理研究號) 九月

日本島の出現に就て(藤本治義)

岩漿を寢床としてある日本(本間不二男)

日本の聚落殊に村落立地の地理學的考察(小田内通敏)

日本大地形機制の漂移説的解釋(北田宏藏)

岩漿風化の經濟的價値(渡邊萬次郎)

日本植物の垂直的分布(矢部吉順)

瀬戸内海地帯の科學的考察(下村彦一)

中等教育に於ける地理教授に就いて(石橋五郎)

郷土地理教育の必要(田上政敏)

地形圖利用の一般化に就いて(入江三二)

現今日本地理教授上の缺陷と其對策(中等學校地理科教諭)

地理教育上郷土地誌の價値に就いて(同上)

○北海道石炭鑛業會々報 第一八〇號 八月

北海道の地體構造に關する一考説(渡瀬正三郎)

○臺灣博物學會會報 第一九卷第一〇三號 八月

Brief Notes on the Alkaline Rocks of Taiwan.

(Takeshi Ichimura)

臺北市附近に發達する第三紀凝灰岩層に伴ふ玄武岩と集塊岩(市村毅)

臺北市附近に於て最近發見されたる海綠石(市村毅)

○氣象集誌 第二輯第七卷第七號 八月

昭和三年六月三日九州天草島附近の地震に就いて(石川高見)

地球上氣壓變化について(大石二郎、吉岡勝哉)

○朝鮮 第一七二號 九月

赴戦江水電工事をみる(吉田猶藏)

慶尙道の藥水(慶尙南北道)

○探鑽冶金月報 第七年第九報 九月

石炭地質學講話(一)(上治寅次郎)

○石油時報 第六〇八號 九月

邦領樺太に於ける石油(可野信一)

○A new occurrence of Schwagerina princeps in

Sumatra. By Y. Ozawa. (*Eologie Geologica Helv-*

etiae Vol. 22. No. 1. 1929)

○*Japanese Journal of Astronomy and Geophysics.*

Vol. VII. No. 1. Aug. 1929.

On the chronic and acute earth-things in the Kin

Peninsula. (A. Inamura)

○*The Science Reports of the Tohoku Imperial*

University, Sendai. Second Series (Geology).

Vol. XI. No. 3. June. 4Yen. (丸善)

Tertiary Foraminiferous Rocks of the Philippines.

(Hisak tsu Yabe and Shōshirō Hanzawa)

○*Centralblatt für Min., Geol. u. Paläont. Abt. B.*

No. 8. 1929.

Ueber den Mongolisch-Amurischen Falungsgürtel.

(G. Schönmann)

Bemerkungen zu G. Schönmann "Ueber den

Mongolisch-Amurischen Falungsgürtel."

(H. Sill'e)

○*Petermanns Mitteilungen*. 75. Jahrg. Hft. 718. Juni 1929.

Morphologie des Werchojanskter Gebirges in Sibirien. (A. Schultz)

Die geographischen Ergebnisse der Polarexpeditionen der „Norge“ und der „Italia“, (U. Nobile)

Eine neue Statistik der chinesischen Bevölkerung von Chen Hua-yin. (Fr. Otte)

○*Zeitschrift der Deutschen Geologischen Gesellschaft*. 81. Bd. Heft 1/2. Juli 1929.

Tektonische Formen in Mitteleuropa und Mittelasien. (H. Sille)

Zum Bau Russisch-Zentral-Asiens. (A. Born)

Was nützt die Variationsstatistik der Paläontologie? (H. Kühn)

○*Bulletin of the Geological Society of America*. Vol. 40. No. 1. March, 1929.

Continental Genesis. (B. Willis)

Geological History of the Antillean Region.

(C. Schuchert)

○*Bulletin of the American Association of Petroleum Geologists*. Vol. 13. No. 7. July, 1929.

The By-Passing and Discontinuous Deposition of Sedimentary Materials. (J. E. Eaton)

○*American Journal of Science*. 4th Ser. Vol. XVIII No. 104. Aug., 1929.

Structural Geology of Eastern Part of Boston Basin. (M. Billings)

Torsion-Balance in Determination of Figure of the Earth. (D. C. Barton)

Astronomical Methods of determining Figure of the Earth. (W. D. Lambert)

○*The Pan-American Geologist*. Vol. LI. No. 5. June 1929.

Geologic Thought and Isostasy. (C. Keyes)

Geology of Bentonite. (C. H. Davis)

○*Gerlands Beiträge zur Geophysik*. Bd. 32. Hft. 3. 1929.

The Iwatsuki Seismic Zone. (B. Kotô)

Die dreieckige Erdfigur und die Isostasie. (K. Mader)

○關領東印度經濟事情 大阪市役所産業部調査課編 三月

實費一圓五〇錢

○歷史地理 第五四卷第三號 九月

攝津三島郡の條里(天坊寺彦)

島取沿岸に進展する海嶺砂丘地帯連続の史的考察(直良信夫)

○*The Geological Magazine*. Vol. LXVI. No. 782. Aug. On the classification of faults. (K. W. Earle)

Some characteristic structural types in Eastern

Asia. (1). (J. S. Lee)

○The Pan-American Geologist. Vol. LII. No. 1. Aug.

International relationship of Minerals. (T. Holland)

○Nature. Vol. 124. No. 3118. Aug. 3. London.

International relationship of Minerals. (T. Holland)

○The Philippine Journal of Science. Vol. 40. No. 1.

Sept.

Mayon Volcano and its eruptions. (L. Faustino)

○Germanische Beiträge zur Geophysik. Bd. 22. Hft. 4.

1929.

Zur Frage der Entstehung der Kontinente und

Ozeane. (J. Geszt)

○都市と農村 柳田國男著 (朝日常識講座第六卷) 朝日新

開社 三月

○岩石礦物礦床學 第二卷第四號 十月

海成油母岩と石油礦床との關係(高橋純一)

臺灣火燒島の莖青石と其母岩に就て(市村毅)

駒ヶ嶽爆發による火口附近の高距の變化(渡邊萬次郎)

神岡礦山産珪灰鐵礦の化學成分(八木次男)

○地理學評論 第五卷第一〇號 十月

ヘットナーの地理學方法論及び地表區分(綿貫勇彦)

八ヶ岳火山山麓の景観型(下)(三澤勝衛)

河岸段丘の非對稱的配置と其の成因(六)(東木龍七)

○科學畫報 第一三卷第四號 十月

海底トシネルの二大計畫(渡邊貫)

地球の年齢はどうして計るか(菊池麟平)

○地理教育 第一一卷第一號 十月

最近開通せる北海道の鐵道三新線(渡邊萬次郎)

日本經濟區に就て(三)(常士徳治郎)

バルカ即ち呼倫貝爾に於ける諸種族の分布及び産業(三)

(西山榮久)

駒ヶ岳火山と爆發(下)(田上政敏)

動物地理學上より見たる日本(三)(曾根廣)

西藏探検秘史(四)(ソコロフスキー)

浙江水郷の運河(上)(後藤朝太郎)

珍しい温泉熱の利用(幸野岩雄)

○日本鐵業會誌 第四五卷第五三三號 九月

石狩中央炭田の應用地質に就て(田上政敏)

○臺灣時報 第一一八號 九月

臺灣石油業の現在並に將來(中野鐵平)

○調査時報(滿鐵) 第九卷第九號 九月

滿洲金鐵事情(トルカシエフ)

○武藏野歴史地理 第二冊(東京西郊、東京西南郊)

高橋源一郎編 東京市外武藏野歴史地理學會發行 九月

二圓五〇錢

△東亞地質圖 二百萬分之一 東京地學協會編纂興源公司發

行 東京地學協會發賣 五月 二五圓

○北光 第二六號

自然地理學的に見た飛鳥(安齊徹)

○滿蒙 第一〇年第一〇號 十月

大和尚山の地形に觸れて(福田收作)

○The Geographical Journal, Vol. LXXXIV, No. 5.

Sept.

The Alai-Pamirs in 1913 and 1928. (W. R. Rickmers)

Mountain Names on the Indian Border.

The Mountains of Karakoram: A Defence of the

Existing Nomenclature. (S. Burnard)

◎生活状態調査 (其一)水原郡 調査資料第二十八輯

善生永助編 朝鮮總督府 九月

○地震研究所彙報 第七號第二冊 九月

火山の形(英文) (寺田寅彦)

關西地方の地震變形並に現在地形との關係(英文) (寺田寅彦、宮部直巳)

神津島火山(英文) (津屋弘遠)

茅ヶ岳火山(英文) (市來政彥)

丹後地方震災地復舊二等三角測量記事(陸地測量部)

雜報

○羽後象潟と羽前吹浦(圖版第五版説明)

稱されて「松島は笑ふが如く象潟はうらむが如し」と奥細道

に記された東西二十町、南北三十町の潟湖は文化元年六月四日の庄内地震の際土地隆起の爲め水涸れ沙現れて平地となつた。水から出た低地は葦藁の茂る所となつたが鹽越(今の象潟町)の農夫はすぐに開墾に従つて良田を得ること百町餘に及んだ。今舊態を存するのほもと瀉の中にあつた九十九の小島である。この小山は元來島海山の裾の流れ山である。若しも北海道の大沼の水が涸れたら大沼公園のあたりもこの様になるであらう。圖版は「この寺の方丈に座して籠を捲けば風景一眼の中に盡く」と書かれた蚌滿寺(干滿珠寺)境内から北方に島々を見たところ。

莊内平野の西を限るものは日本海沿岸の砂丘である。南は湯野濱から北は吹浦まで三十五軒の間に亘り最廣二軒半に至るこの砂丘の北部島海山の南西麓は酒田から北方に向ふ大路に衝つて居る。酒田吹浦間の様子は東遊記によると河に棲まじいものであつて北西風の烈しい冬季は盛に砂を飛ばして行人をして大に苦ましめた。路傍に人家なく又田畑も見えず、左は大海、右は島海山にて過る所は渺々たる沙場なれば、道路もさだかならず、……其間三五十間程づゝに柱を建て道の目印とせり。風起りて「沙を吹起すにぞ、天地も眞黒に成り、目當の柱の見えざるのみか、我うしるに從ひ來たる葦軒さへ見えわかれば、互に聲を合せ手を携へて行程に、後には前後をだにわきまへず。」「其吹ちらす沙、風の吹廻しによりて所々に吹たまり、或は堤の如く塚の如く、日々に其形變す。」「か様な砂丘の移動は明治の昭代に入つて永い間の松の植林とな